



鴻池運輸株式会社

KONOIKEグループは、物流の枠を超え、
製造、医療、空港業務などを通じ、
社会課題の解決と革新に挑戦し続ける、
プロフェッショナルサービス集団です。

大阪本社

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-3-9
TEL : 06-6227-4600(代)

東京本社

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1
TEL : 03-3575-5751(代)

ウェブサイト : <https://www.konoike.net/>



2023.2

2030年ビジョンサイトはこちら。2030年ビジョンムービーもご覧ください。

KONOIKE 2030 VISION
SPECIAL SITE »





技術で、人が、 高みを目指す

目まぐるしく変化する世界の中で、私たち KONOIKE が次に目指すもの。それは、現場に携わる一人ひとりが「高み」を追求し、それぞれが想い描く「幸せ」を手にする事だ。多様性を尊重し、縦のつながりだけでなく、横につながる柔軟な連携で、ユニークなアイデアの新たな事業を創造していく。お客さまや社会の「一歩先のニーズ」を先取りし、社会を、世界をより良くしていく。そのために必要な道具が「テクノロジー」だ。技術そのものが目的ではない。企業理念である「人」と「絆」を基本に、最新のテクノロジーを上手に取り込み、KONOIKE スピリットにさらに磨きをかけていこう。私たちのすべての仲間を輝かせていくための、次のステージが待っている。



VISION / STATEMENT

ビジョン・ステートメント

希望は自分で
つくりだせ。
技術で人が
高みを目指す、
次のKONOIKEへ。

先端テクノロジーを使いこなす
次世代のKONOIKEスピリットで、
お客さまと社会の課題解決を図る
「現場のあり方」を進化させていきます。

私たちは、知っている。

140年以上、現場で汗をかき、考え抜いてきた先に見える、お客さまの本当の課題を。

変化の流れを捉え、お客さまとともに一歩ずつ革新していくことが、

この国の社会に、新しい価値を生み出すことを。

時代は、大きく変わろうとしている。

この複雑で不確実な世界では、昨日までの常識が、明日新しいルールに置き換わる。

しかし、私たちの原点、「人」と「絆」が揺らぐことはない。

むしろそのつながりを、新しい時代に合った形で、さらに強くしていく。

それは、一人ひとりの自由な創造性を、互いに認め合うこと。

そして、部門の垣根を越えて融合し、自ら新しい「流れ」をつくりだす。

一人ひとりの幸せを追求し、大切にすることが、

仲間を、お客さまを、社会を、そして世界を、いままでになかった幸せに導いていく。

淀川の流れを変え、大阪繁栄の基盤を革新した我々には、

つねに社会の課題を解決しようとする、挑戦者のDNAがある。

「技術で、人が、高みを目指す」が、次の挑戦だ。

テクノロジーの力で、KONOIKEスピリットに磨きをかけ、お客さまと社会、そして地球の、

次のニーズにこたえていく。不確実な時代の答えを、ひとつずつ発明していく。

さあ、現場へいこう。

ビジョン・ステートメントに込めた想い

KONOIKE 2030 VISION

ビジョン・ステートメントは、私たち KONOIKE を原点から見つめ直し、
変化し続ける未来へ向け大切にしたい考え方をまとめた、4つの要素からなるブランドストーリー。
長い歴史の中で培ってきた、私たちの不変のDNAから紐解き、未来への道筋を描いています。

STORY

1

KONOIKE 不変の原点

- 「人」と「絆」を大切に、社会の基盤を革新し、新たな価値を創造する。
- 「愚直」に取り組み、お客さまや社会の現場のニーズを知り抜く力。

STORY

2

時代変化への対応

- 「人」と「絆」という企業理念を、新しい時代に合った形に進化させていく。
- 部門の垣根を越えて融合し、社会にとって必要な新たな価値を創造する。

STORY

3

「幸せ」の追求

- 一人ひとりの創造性を育み、多様性を尊重し、すべての人の豊かな生活を実現する。
- 自分が社会にどんな役割を果たし、どのように必要とされる存在かを考える。

STORY

4

テクノロジーによる革新

- 技術を上手に取り込み、KONOIKEスピリットに磨きをかけ、人が輝く世界をつくる。
- 社会基盤を革新する「挑戦者のDNA」で、次の時代の新しいニーズに応えていく。

BRAND SYSTEM

私たちのブランド

KONAIKEグループ
ブランド体系

私たちの
ブランド

ブランドプロミス

私たちの
約束

期待を
超えなければ、
仕事ではない

企業理念

私たちの
使命

「人」と「絆」を大切に、
社会の基盤を革新し、
新たな価値を創造します

2030年ビジョン

私たちの
目標

KONAIKEグループが
2030年に目指す姿

技術で、人が、高みを目指す

行動指針

私たちの
覚悟

人 | 命を守る覚悟は、あるか
仕事 | 情熱を、燃やしているか
自分 | 昨日を、超えているか

高みを目指すとは

1

新技術を活用し、現場のさらなる安全確保と改善・工夫を進め、一人ひとりの創造性を高める豊かな働き方を
実現していく。

2

匠の“暗黙知”を、みんなが使えるグループ共通資産という“強み”に変えていき、
変化対応力のDNAに磨きをかけていく。

3

安全・安心の水準を高め、次世代の事業創出力を強化し、
サステナブルな社会基盤創造へさらなる革新を
実現していく。

先端テクノロジーを使いこなす次世代のKONAIKEスピリットで、
お客さまと社会の課題解決を図る「現場のあり方」を進化させていきます。

2030 VISION

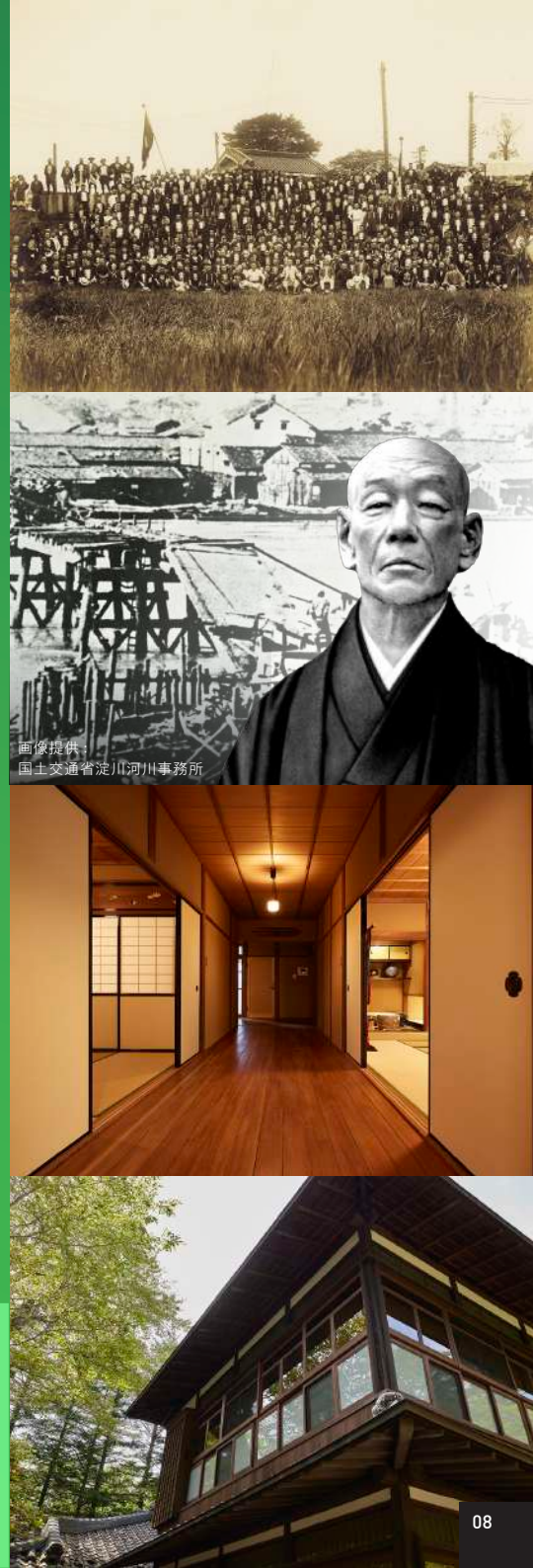
「2030年ビジョン」は、KONAIKEグループ全体の企業ブランド体系の頂点に位置する「私たちの使命」を実現していくための、具体的な「私たちの目標」です。2030年という、すぐ先の未来への道筋が明確に示されたことで、ブランド体系全体がより強いものとして完成しました。さらに、「高みを目指す」という一言に込められた企業ブランドとしての目標も、3箇条の形で明文化しています。

創業者・鴻池忠治郎が
晩年を過ごした「姫島荘」

KONOIKE不変の原点～ 「挑戦者のDNA」

1852年、現在の大阪市此花区伝法に生まれた創業者・鴻池忠治郎は、父から廻船問屋を引き継ぎ、海運業と並行し土木・建築の事業場や製造業へ人員を供与する労務供給業を開始。1880年「鴻池組」の名称のもと事業を開始した。度重なる淀川流域の洪水や氾濫に悩まされた淀川流域の治水対策として国の直轄による淀川改良工事が計画され、白羽の矢が立ったのが忠治郎だった。忠治郎は、約16kmの工区の工事を請け負い、長年築いてきた人脈と信頼のもと、人心を掌握する持ち前の統率力を発揮し大量の労働力を投入、1898年から丸5年間を費やし新淀川開削工事を遂に完成させた。水害に悩まされていた地域には、天満橋や淀屋橋など現在の大阪の中心地も含まれており、明治以降の近代における大阪隆盛の礎を築いたと言っても過言ではない。忠治郎が晩年を過ごした「姫島荘」には、今もなお「挑戦者のDNA」が息づいている。

ORIGIN



画像提供
国土交通省淀川河川事務所

「東京レールゲート」は、
グループが取り組む
「モーダルシフト」の推進拠点。
人と環境の負荷低減、物流効率化、
労働力不足の解消など、
事業を通じた社会貢献に取り組む。

時代変化への対応

大きく変わりゆく世の中への素早い対応も、KONOIKEが持つ「挑戦者のDNA」のひとつ。変化の流れを的確に捉え、お客さまや社会とともに一歩ずつ社会基盤を革新していく。変化の激しい世界の中で、確実に新しい価値を創造していくことが私たちの仕事の本質と言える。これからの持続可能な社会に向けた私たちの取り組み。そこには、事業を通じた貢献や独自の環境配慮など多岐にわたる取り組みが続けられている。例えば「モーダルシフト」。トラックなど自動車で行われている貨物の陸路輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用に転換する、次世代の物流に欠かせない大切な取り組みだ。KONOIKEグループは「東京レールゲート」を主要拠点としてモーダルシフトを積極的に推進し、年間約5,000tのCO₂排出削減効果を生み出している。さらに世界的にも大きな経済発展を遂げているインドでも早期より鉄道コンテナ事業を開始。効率的な安定輸送の実現だけでなく、人と自然環境の負担低減を図りながら、労働力不足の解消といった社会課題解決の視点においても大きな貢献を果たしている。

CHANGE



画像提供：株式会社安藤・岡 静岡支店

3



昨日の自分を超越して、
ワクワクする未来をつくっていこう。

「幸せ」の追求

昨日の自分を一歩でも超越して成長し、ワクワクする毎日を過ごせる会社でありたい。これからのKONOIKEは、そんな一人ひとりが集まった、多面的な集合体でありたいと思う。さあ、自分にしかできない「強み」を発揮して、新しい道をつくろう。たった一人の小さな成長実感も、それが積み重なれば、とてつもなく大きな力と可能性になっていく。現場を支える匠の技術でもいい。匠を支えるサポート役でもいい。現場で日々働く中、「自分だけの強み」を信じてみよう。強みを発揮して生まれたちょっとした自信が、次の挑戦につながる。挑戦を続けていけば、夢の実現につながっていく。自分が笑顔になることで、世界の誰かの笑顔をつくっている。そんな働きがいのある会社へ。KONOIKEの次の姿を、みんなで描いていこう。

HAPPINESS



4

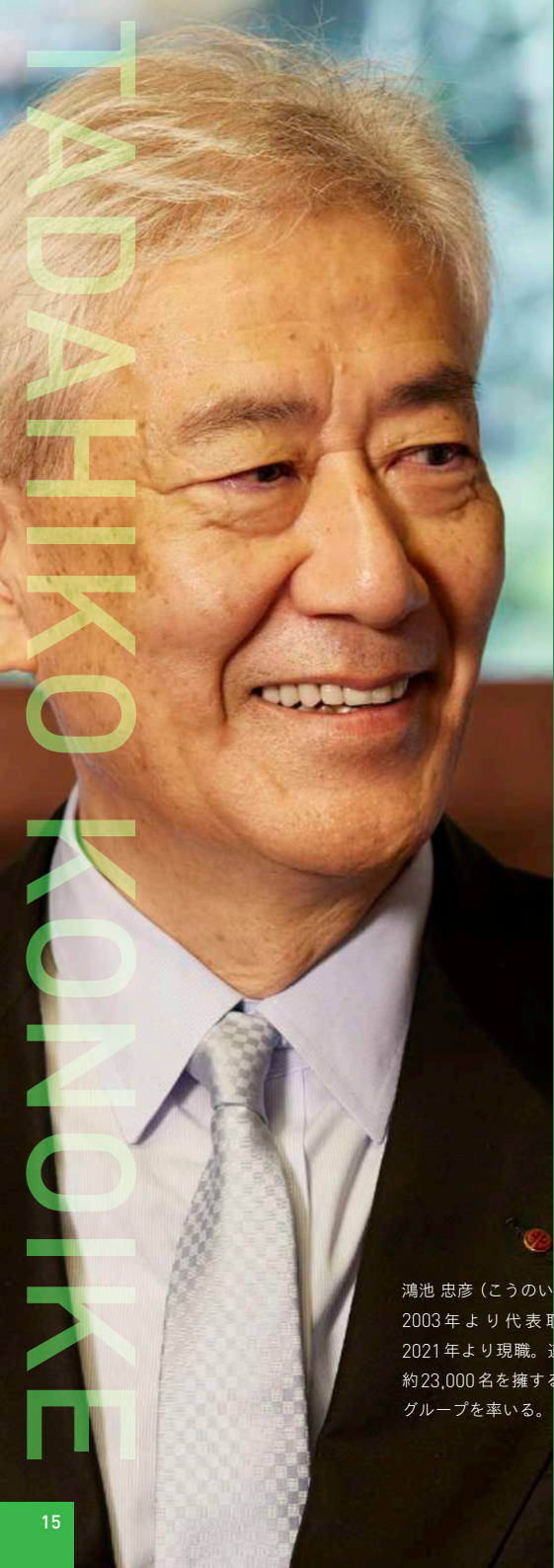
職人の技を、みんなのものに。
すべての人に、挑戦の機会を。

テクノロジーによる革新

KONOIKEにとって、最新技術だけが「技術」ではない。私たちが誇る安全・安心のブランド力を支えるのは、現場のプロフェッショナルである職人が持つ、属人的な技術や長年の貴重な経験だ。そうした広義の「技術」をテクノロジーの力を使ってみんなが使える共有資産とすることで、次の社会を支えていく新たな価値を創造していこう。そう、「技術で、人が、高みを目指す」とは、最新技術が人にとってかわるという安易な考え方ではない。長い時間の中で育まれてきたKONOIKEスピリットを、テクノロジーという道具を使ってさらに磨きをかけ、新しい時代に生きる人の「幸せ」を手に入れていくということだ。テクノロジーは、すべての人に挑戦の機会を与えてくれる。

NEXT-GEN





代表取締役会長兼社長執行役員

鴻池 忠彦

鴻池 忠彦 (このいけただひこ)
2003年より代表取締役社長、
2021年より現職。連結従業員数
約23,000名を擁するKONOIKE
グループを率いる。

特別対談

2030 VISION
SPECIAL CONVERSATION

原点があり、先人たちの支えがあるからこそ、今がある。

鴻池 ここ「姫島荘」は、現在の大阪市西淀川区姫島で創業者・鴻池忠治郎が晩年を過ごした住まいです。私が先代から受け継ぎ、建築の専門家の方々の力をお借りして、軽井沢に移築しました。かつてここは、創業者が自分のもとして働く多くの人々の苦労をねぎらった場所です。床が分厚くつくられていて、廊下も振る舞う料理を次々と運べるよう幅広い作りになっています。また、併設されていた蔵にはたくさんの大皿がありました。明治、大正、昭和の初期の大変な時に、ここで創業者から食事やお酒を振る舞ってもらうことは、働く人々にとって楽しみでもあり、誇りでもあったと思います。
前刀 まさに御社のDNAの場所ですね。
鴻池 はい。今の人たちにもここに来てもらうことで、時代を超えて先人につながる気がしますし、私たちの理念である「人」と「絆」を改めて強く感じます。自分たちのルーツを再認識することで、未来をより明確に想像する。これはとても

変化の大きいグローバル社会の中で、KONOIKEグループが未来に描く姿とは何か。かつてアップルの米国本社副社長、日本法人代表として数々の大ヒット商品を上市し優れたマーケティング力で市場を切り拓いてきた前刀 禎明氏を、KONOIKEのDNAがいまも息づく軽井沢「姫島荘」にお招きし、鴻池社長とともに、そのビジョンを熱く語っていただいた。

大切なことだと思います。

前刀 過去とは古臭いものではなく、「先人たちが未来をつくってくれた結果が、今」ということですよ。先輩方がやってくれたように、自分たちも未来をつくっていく。姫島荘に来て、その感覚を五感で味わうことで、覚悟といいますか、未来へのつながりをより強くしていこうと思える場所だと感じました。

鴻池 未来をつくっていくことは、ものすごくワクワクしますし、楽しいことだと思います。不安やリスクも当然ありますが、すごくクリエイティブで、自分のチャレンジに評価をもらったり、結果を出すことにつながる。そういう場を与えてもらうことは、ものすごく楽しい。

前刀 それは、決して世の中に流されていくのではなく、自分たちが未来を創造していくということです。例えば、新技術の採用といった「方法論」は、時代とともに新しいものをどんどん導入すればよく、大切なのは、「何のためにそれが必要なのか」という「本質的な価値」を見極めることです。

鴻池 その通りです。

前刀 ベテランの経験が、若い人たちの新しいやり方で置き換えられつつ、本質の部分を継承し、活かしてもらって、また新しい未来を創造する。この連鎖ですね。今を生きている人たちは、自分たちが学んだことや先人の学びも参考にしながら、本質を形にして伝えていくということが大事だと思います。

鴻池 自分だけで作り上げたものなんてないですし、そんな考えはおこがましいですね。先人が継承したものや築いたものを我々は使わせてもらっている。

「技術で、人が、高みを目指す」は、人の可能性を信じるメッセージ。

鴻池 当社の事業所の一つに日本製鉄様の東日本製鉄所鹿島地区があり、50年以上前の製鉄所ができた当初から私たちが仕事をやらせていただいています。そこでの仕事に、製鉄所内で鉄鉱石や石炭を運ぶために縦横無尽に張り巡らされたベルトコンベアを管理する業務があります。ベルトコンベアは両端にプーリー（滑車）があって回転しており、ベルトの中間部

分にはベルトを支える無数のローラーがあります。それらが鉄鉱石の影響で錆びると回転せずに固着してしまうのですが、その状態でベルトコンベアがすごいスピードで流れると大きな摩擦が起こり、摩擦が原因で火災が発生することがあるんです。それを防ぐために、私たちがベルトコンベアの横を歩いて、回転が鈍くなった時に発生するキーキーという音を、神経を集中して聞きながら点検して回りますよ。不良箇所を見つけてメンテナンス部隊に連絡すると、スタッフがそこに行って補修します。

前刀 とてつもなく大変な作業ですね。

鴻池 そこで、何かテクノロジーを使って効率化できないかと、支店長が現場のスタッフに課題解決の機会として与えたんですね。すると、彼らが一生懸命考えて、ドローンのカメラにサーモグラフィをつけ、上空からローラーの摩擦の熱感知を可能にする方法が開発されたんです。



前刀 それはすごい。

鴻池 総延長50~60キロという長い距離を、これまでは歩いて音で感知していたのが、一瞬にしてピンポイントでチェックできるようになったんです。私たちは「技術で、人が、高みを目指す」という2030年ビジョンを掲げてさまざまな取り組みを始めていますが、これはその一つの例です。

前刀 人の力に頼らざるを得なかったことを、ドローンで圧倒的に的確に省力化できる。そういった技術の活用はどんどん進めるべきだと思いますね。「技術で、人が、高みを目指す」というビジョンは、社員の皆さんのことを信じているし、その可能性を信じて発信しているメッセージだと僕は思います。

鴻池 ありがとうございます。

前刀 変わらず続けてやっていらっしゃることを、技術で置き換えることができれば、人はさらに高い価値創造へチャレ

ンジしていけるということです。ビジョン・ステートメントの冒頭にある「希望は自分で作りだせ」も、自分がそうなりたいと思って変わっていかねば人は変わっていけないというメッセージだと思います。

鴻池 はい、人のための技術革新だと考えています。

前刀 私は、自分自身を成長・革新させることを「セルフイノベーション」と呼んでいます。技術や人、どんなことから学ぶ姿勢ですね。そのように学び続ける知性を「ラーニングインテリジェンス」と呼び、それを高めるために必要な、自発的にワクワクしながら学ぶことを「ワンダーラーニング」と呼んでいます。こういった考え方を提唱し、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。KONOIKEグループの社員の皆さんも、まさに成長・革新のチャンスです。「技術で、人が、高みを目指す」と会社が言ってくれているということは、一人ひとりが高みを目指していいということですね。

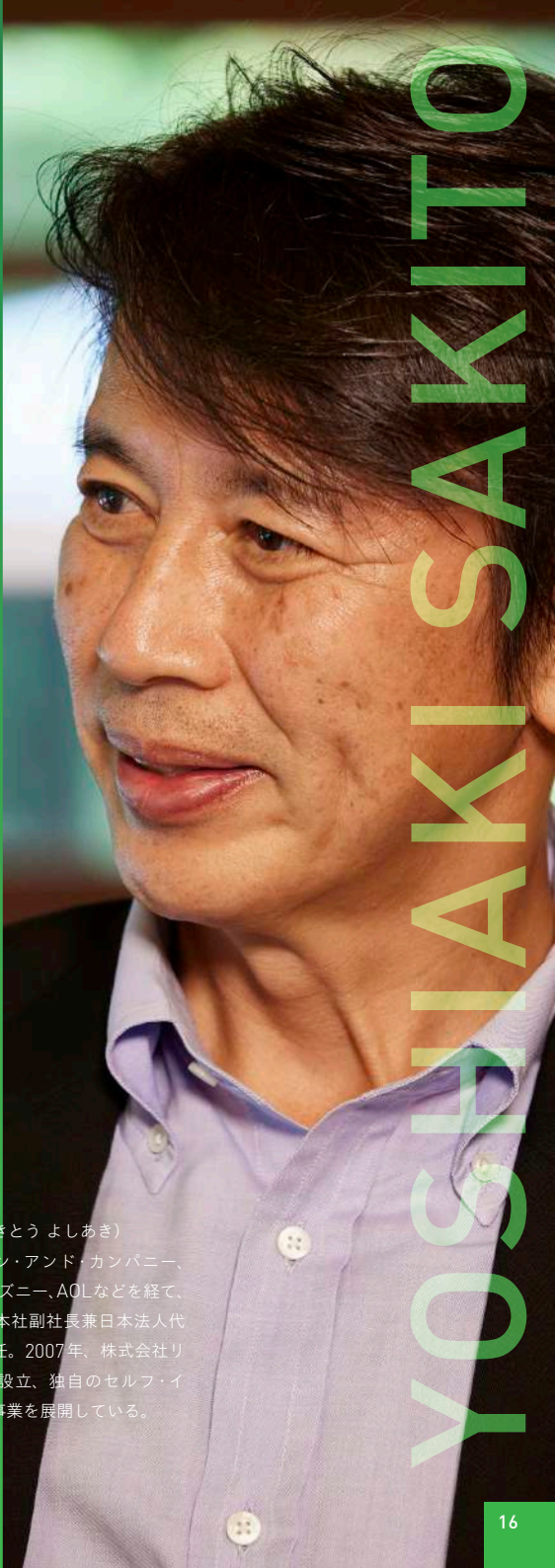
大切なのは、自分を解放し、壁を超え、新しい価値を創造すること。

鴻池 今の話を聞いて思いましたが、自分たちだけで課題解決を試みても限界があるけれど、他の技術や他の人の知恵を活用してもらい、いろいろな組み合わせを実現することによって課題解決を考

リアルディアー代表取締役社長

前刀 禎明

前刀 禎明 (さきとう よしあき)
ソニー、ペイン・アンド・カンパニー、
ウォルト・ディズニー・AOLなどを経て、
アップル米国本社副社長兼日本法人代
表取締役に就任。2007年、株式会社リ
アルディアを設立、独自のセルフ・イ
ノベーション事業を展開している。



対談全編はこちら。
対談時の映像も
ご覧いただけます。

2030年ビジョン
サイト
対談ページ



※本対談は、2022年9月18日に、創業者・鴻池 忠治郎が晩年を過ごした「姫島荘」で実施したもので、記載の役職等は対談当時のものです。

お客さまは大切にしながら、自分たちの会社、ブランドに誇りを持って、人は人、自分は自分と、我道をゆく。KONOIKEイズムで、我々はこう考えるんだ。これが我々の方針なんだと、自信を持って進んでいきたいですね。

前刀 会社の明確なビジョンのもと、人がまた、それぞれのビジョンを描く。好奇心を持って、イメージを膨らませて、一人ひとりが自らの可能性を信じてくれる、確実にビジョンを実現することができる。会社全体が幸せになることはもちろん、それを支える一人ひとりが、充実した働き方や生きがいを持ってチャレンジしていければ、こんな楽しいことはないんだと思います。

鴻池 はい。今日はこうしていろいろお話をして、これからの2030年に向けて、非常に明るいKONOIKEの将来が見えてきたような気がします。私自身もすごく楽しみにしています。本当にありがとうございました。

前刀 こちらこそ、ありがとうございます。

鴻池 うちの現場に行くと、いろいろな作業を見せてもらおうと、まさにすごい匠の技術を見ることが出来ます。ところが、やっている本人は「そうですか?」と言う。当人たちは自覚がなくて当たり前のことをやっているつもりなので、実はすごいよと言ってあげたくなる。

前刀 そう、自分の強みって分からないものです。ですから、2030年ビジョンの「技術で、人が、高みを目指す」の「技術」も、テクノロジーだけではなく、人が持っている匠の技もありますし、思考も技術です。「技術」の定義をもっと広く捉えれば、本当に人を幸せにできるものだと思いますね。

鴻池 はい。うちの現場の人たちが自分たちの力を再認識してもらえたら、それが自信につながって、もっと挑戦してみよう、お客さまの課題を解決してみよう、ということにつながっていくと思います。私が昔から好きな言葉に「大なる好奇心、果てしないロマン」があります。好奇心を持って、大きな夢を持って、肩の力も抜いて、自分の力を信じて取り組む。

昨日の自分を超えて、 ワクワクする未来をつくっていこう。

前刀 KONOIKEブランドの「私たちの覚悟」の項目に「昨日の自分を超えているか」という内容の指針がありますが、これはすごく大事です。私も講演でよく話す中に「必ず人は成長できる。だから、昨日の自分よりも今日の自分。明日にはさらに成長した自分がある」という内容があります。これをずっと続けていくことが重要だと思います。

鴻池 それをプレッシャーと感じずに、楽しみや喜びとしてできる会社でありたい。

前刀 成功した人たちに「人生における成功は何か」と問いかけると、お金や名誉ではない。自分ならではのことをやって、人の役に立っていることなんですね。それが自分の生きがいになると。KONOIKEグループの社員の皆さんにも、自分の人生を自分で選択して、少しでも成長実感を得てもらいたい。昨日の自分よりも今日少しでも成長していれば、すごく充実したものを感ずることが出来ます。

答えはなくても、無意識のうちに、それに関連した情報を感知するようになる。それがある程度固まってくると、ある瞬間にひらめく。

鴻池 私も、私が言うことをいろんな方々に一生懸命まもっていただいています。

前刀 右脳のなことを右脳的に分かる人もいれば、そうではない人も結構いるので、右脳のなことをいかに左脳的に説明するのが、ビジネスの現場では求められている。ですから、それも持ちつ持たれつであって、得意な人にやってもらえばいいと思います。そういうのは全然気にすることなく、右脳活性化をおすすめします。

鴻池 右脳型人間の方は、今の言葉で勇気づけられると(笑)

前刀 私はもう完璧に右脳タイプで、物事をイメージで捉えます。

鴻池 人は自分の欠点や弱みばかり気にして、せっきくの強みが活かされていない。これはとてももったいないですよ。

前刀 「何かをできないことが自分の個性です」というくらいの感じがいいと思いますよ。

人が脳の中で何かをずっと考え続けることで、頭の中で忘れてしまっている経験や膨大な知識が瞬時に結びつくことです。いわゆる左脳の論理的思考以上に多くの情報にリーチして出てくる答えなので、より素晴らしいはずだと思っています。

鴻池 私も朝起きた時にパッと何かを思い浮かんだりすることがありますが、論理的に物事を説明するのは非常に苦手で、口下手なんです。いつも、どうしたらいいのか…と思うのですが。

前刀 それは、自分でやらずに得意な人にやってもらうといいです。日本人は「何でもできる人」を優秀だとする価値観がありますよね。だから、欠点を克服しようとしません。でも、それはやらないほうがいい。例えば、テニスで、日本ではバックハンドが苦手であればバックハンドばかり練習させられる。ところが米国だと、フォアハンドが得意であればフォアハンドばかり練習する。強みが武器になってすごく強いプレーヤーになっていく。日本人は、苦手なことばかりを練習している間に、得意なもののレベルが落ちてしまっている。企業も同じです。

鴻池 ありがとうございます。安心しました。人の力を借りて、助けてもらえばいいですね。自分の長所や強みを活かして、自分が不得意なところは、人に助けを借りていくと。

前刀 はい。課題や問題意識を頭の中へくさびとして打ち込んでいく。その時に

えていけば、何か飛躍的にいろいろなことができるようになるかなと。

前刀 おっしゃるように、視野が狭いと、固定観念や既存概念で型にはまっています。まずやるべきことは、そういったものから自分を解放するという事です。その上で、自分たちが何をやりたいのか、何を求められているのかを追求し、自分たちを再定義する。そして、結果に満足せず自分たちを超え続けていくというステップが必要です。目の前のリアルを観察して、行く末を想像しながら自問自答する。思いついたことを試してみる。考えた通りだったなということもあるし、全然違うことが起きてしまったりもする。

鴻池 それはいいですね。
前刀 何がいいかというと、新たな発見があることです。違う価値観、業種の人と話してみると、お互いに新発見があり、成長につながる。一番重要なのは、自分が得たものを、全部自分なりに関連づけていくことだと考えています。これは「創造的知性」と言われていますが、新しい価値を生み出していくことです。

鴻池 「右脳・左脳」とよく言われますが、右脳でイメージを創り上げることがすごく大事なのかなと思っています。論理的に積み上げていってもなかなかできない。
前刀 そうなんです。論理的思考は必要ですが、常識ではなく自分なりの関連性を生み出していくという、右脳のな部分が重要です。「ひらめき」は偶然ではなくて、





PROFESSIONAL
SERVICE
KONOIKE GROUP

MEDICAL
PRODUCT
DICTIONARY
Introducing Standard Code
for Medical Consumables
and Disposables

技術で人を磨き、
社会課題を解決する。
一人ひとりの幸せが、
次のKONOIKEをつくる。

「人」と「絆」を大切に、社会の基盤を革新し、
新たな価値を創造します。

私たち KONOIKE グループの【使命】(ミッション)は、創業以来140年以上
続く普遍の哲学だ。それは、これからも永遠に変わることはない。

しかし今、世界は大きく変貌し、企業の経済活動においても、そこで働く
一人ひとりの暮らしや生き方も、根本的な価値観からの変革が必要とされ
ている。大きなうねりの中で、変化を自分のものとして取り込み、次世代
の新たな社会基盤革新へ貢献していくために。一人ひとりが未来へ歩んで
いくための指針として策定されたものが「2030年ビジョン」だ。

「技術」とは変化のひとつに過ぎない。人が持つ「強み」をより魅力的に
していくための道具だ。私たちが誇る「挑戦者のDNA」を磨き、お客さま
や社会の一步先のお困りごとを先取りし、ひとつずつ解決していくことを
積み重ね、日本を、世界を、より良くしていこう。一人ひとりがいきいき
と輝く姿へ。明日からまた、素晴らしい一步を踏み出していく。

KONOIKE

